



リビング建材 ウッディーライン 室内引戸(アウトセット方式)

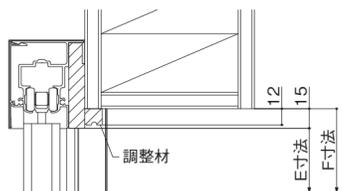
取付け説明書

■参考納まり図

【入隅・化粧縁片面セット】

■縦断面図

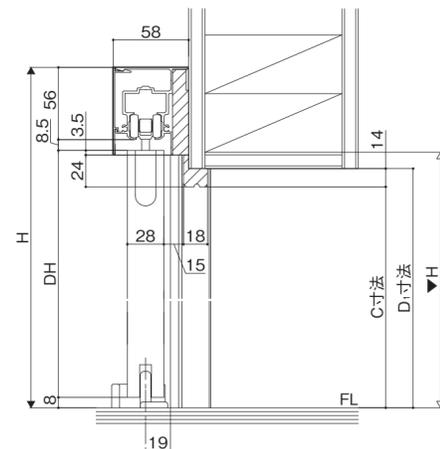
(上部調整材納まり)



W呼称(枠外寸法)	A ₁ 寸法	A ₂ 寸法	B ₁ 寸法	B ₂ 寸法
W13(1324)	621	601	659	629
W16(1644)	781	761	819	789
W18(1824)	871	851	909	879

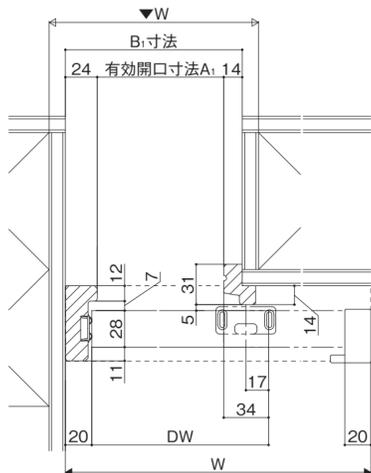
H呼称(枠外寸法)	C寸法	D ₁ 寸法	E寸法	F寸法
H20(2030)	1938	1952	1962	1977
H23(2312)	2220	2234	2244	2259

(上部化粧縁納まり)

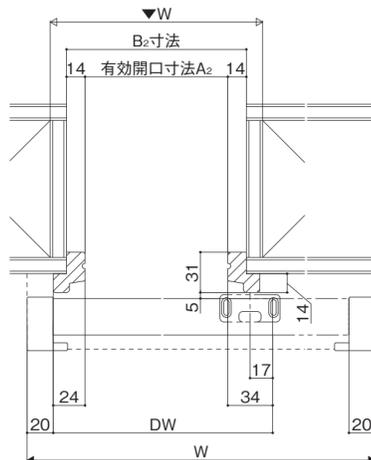


■横断面図

(片面入隅納まり)



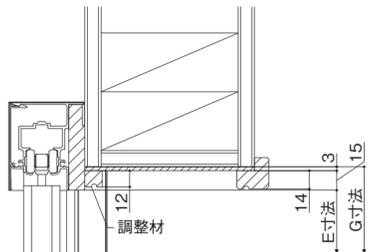
(片面化粧縁納まり)



【化粧縁両面セット】

■縦断面図

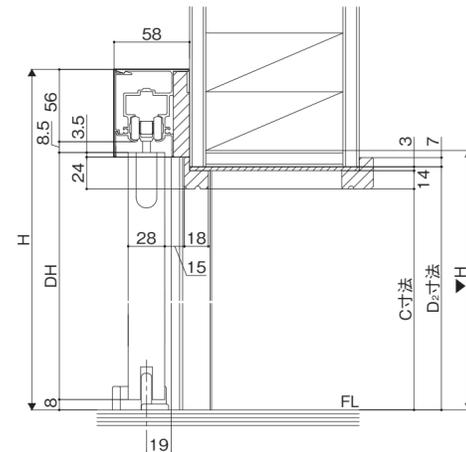
(上部調整材納まり)



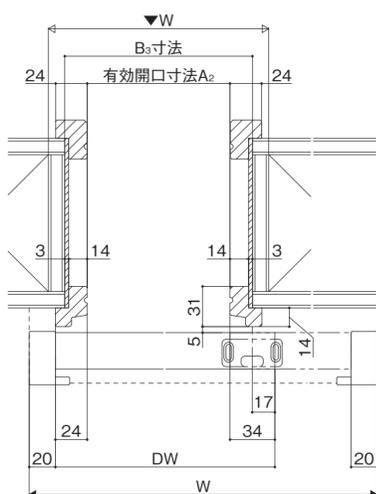
W呼称(枠外寸法)	A ₂ 寸法	B ₃ 寸法
W13(1324)	601	635
W16(1644)	761	795
W18(1824)	851	885

H呼称(枠外寸法)	C寸法	D ₂ 寸法	E寸法	G寸法
H20(2030)	1938	1955	1962	1980
H23(2312)	2220	2237	2244	2262

(上部化粧縁納まり)



■横断面図



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・取付け前に補強材(躯体)の位置を確認してください。取付け位置に補強材がない場合は、必ず入れてください。
- ・石こうボードなどで補強材(躯体)が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
- ・リフォームなどの場合、補強材(躯体)位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどはがして補強材位置を確認してください。
- ・石こうボードの表側には、補強材(躯体)は取付けないでください。
- ・補強材(躯体)は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。
- ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- ・下地材の下穴は、端部から50mmの位置に1個所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
- ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。

■取付け上のおお願い

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は「F☆☆☆☆」又は、ノンホルムタイプを使用してください。
- 造作材・建具枠の下地材・かい木は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 本製品は上吊り方式を採用しています。はり(まぐさ)は、強度を要するため、断面寸法105×180mm以上を使用してください。上レールの垂れ下りの原因になります。
- ガイドピンは、取付け順序「**■**ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障が出る原因になります。
- 本体にガムテープ・クラフトテープなどの粘着力の強いものを直接張らないでください。養生の際は、マスキングテープなど粘着力の弱いものを使用してください。
- ガイドピンと下部ストッパーは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。
- 吊車が上部ストッパー(ゴム部)に当たった状態で、下部ストッパーの位置出しをしてください。上部・下部のストッパーの位置がずれると、上レールが変形するおそれがあります。
- ソフトクローズ部品には潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 枠を現場で切断する場合は、必ず両端より均等に切断してください。作動不良の原因になります。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトクローズ部品に混入し、作動不良の原因となります。
- 下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- 下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。

■部材・部品一覧表

※枠はノックダウン、本体は完成品です。

片引き用本体	枠(レールセット)	化粧緑片面セット	化粧緑両面セット	入隅用縦部材セット
	上レール 下地材 前面カバー	調整部材 化粧緑(横)(本体側)	調整部材 化粧緑(横)(本体側), 化粧緑(横)	
			板材(縦) 板材(横)	

■枠セット一覧表

名 称		片引き用
枠	上レール	1
	前面カバー	1
	下地材	1
部品セット	片引き用	1

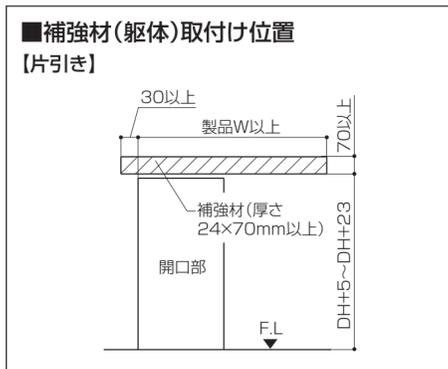
■化粧緑セット一覧表

名 称	片面	両面
化粧緑(縦)(本体側)	2	2
化粧緑(縦)	—	2
化粧緑(横)(本体側)	1	1
化粧緑(横)	—	1
調整部材	1	1
板材(縦)	—	2
板材(横)	—	1
ポリネットチューブ	—	2

■据付け前の準備

1 開口部の作成

①下地材取付け用の補強材(躯体)を下図にしたがって入れてください。

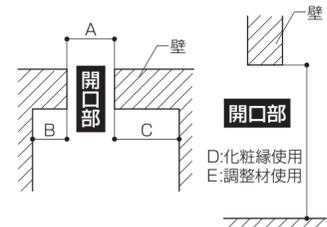


▲ 注意

- 指定の位置に、厚さ24×70mm以上の硬木の補強材(躯体)を設置してください。
- 補強材(躯体)には、虫食い・くされなどのないものを使用してください。
- 補強材(躯体)は、必ず柱・間柱に釘などで固定してください。

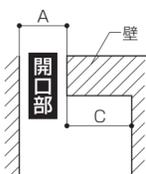
②開口部を、取付け範囲(a~d)にしたがって作成してください。

■取付け範囲



※開口寸法は、壁を仕上げた状態の寸法としてください。

【片側入隅納まり】



■入隅用縦部材セット一覧表

名 称	入数
縦部材	1
戸当り	1

■部品セット一覧表

【片引き用部品セット】

名 称	入数
上部ストッパー取付け用(ナベタッピンねじφ4×45)	4本
上レール取付け用(ナベ小ねじM4×10)	14本
下地材取付け用(DN65ねじφ3.8×65)	9本
ガイドピンセット	1セット
吊車	2個
上部ストッパー	2個
下部ストッパーL/R	L/R各1個
端部キャップL/R	L/R各1個

【プッシュ錠セット】

名 称	入数
プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個
プッシュ錠取付け用(皿タッピンねじφ3.5×8)	2本

【錠受けセット】

名 称	入数
錠受けケース	1個
錠受けケース裏板	1個
引戸錠受け	1個
引戸錠受け取付けねじ(皿タッピンねじφ3.5×10)	2本
錠受けケース裏板取付けねじ(トラスタッピンねじφ4×40)	2本

a) 化粧緑片面セット使用時

	W	DW	A	B	C
W13	1324	659	629以下	30以上	665以上
W16	1644	819	789以下	30以上	825以上
W18	1824	909	879以下	30以上	915以上

※A+C+30≧Wを満たすこと。

	H	DH	D	E
H20	2030	1957.5	1952以下	1977
H23	2312	2239.5	2234以下	2259

b) 化粧緑両面セット使用時

(板材を使用しない場合は、aと同じ範囲です。)

	W	DW	A	B	C
W13	1324	659	635以下	27以上	662以上
W16	1644	819	795以下	27以上	822以上
W18	1824	909	885以下	27以上	912以上

※A+C+27≧Wを満たすこと。

	H	DH	D	E
H20	2030	1957.5	1955以下	1980
H23	2312	2239.5	2237以下	2262

c) 片側入隅納まりの場合の化粧緑片面セット使用時

	W	DW	A	C
W13	1324	659	659以下	665以上
W16	1644	819	819以下	825以上
W18	1824	909	909以下	915以上

※A+C≧Wを満たすこと。

※H開口は、a)と同じです。

d) 片側入隅納まりの場合の化粧緑両面セット使用時

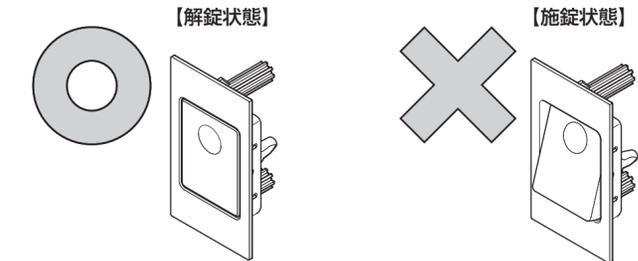
	W	DW	A	C
W13	1324	659	662以下	662以上
W16	1644	819	822以下	822以上
W18	1824	909	912以下	912以上

※A+C≧Wを満たすこと。

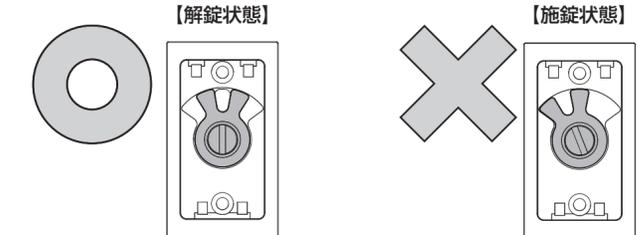
※H開口は、b)と同じです。

【錠の取付け】

①スイッチ座が解錠状態(フラットな状態)になっていることを確認して、スイッチ座を鎌錠のスロット穴に差込んでください。



②スイッチ座の軸心が解錠状態になっていることを確認して、錠座の軸芯を鎌錠のカムに差込んでください。



③スイッチ座と錠座を取付けねじで固定してください。

※必ず手回しドライバーでネジを固定してください。
※取付けねじを締め付け過ぎないでください。錠座が反ります。

④錠座カバーを錠座に取付けてください。

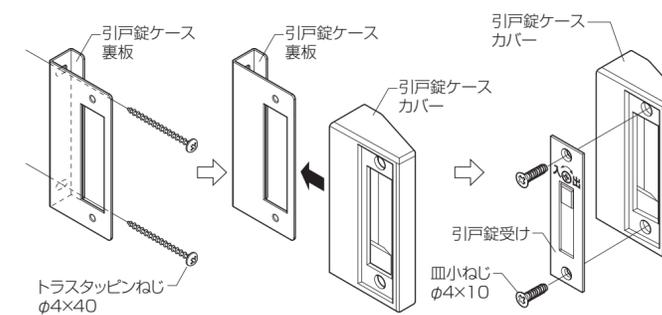
■引戸錠受けの取付け

①枠の左右勝手に合わせて、同梱のねじ(トラスタッピンねじφ4×40)で、引戸錠ケース裏板を壁面に取付けます。
※引戸錠ケース裏板は、扉を閉めた状態で5.5mmあけた位置に(右図)に取付けてください。

②引戸錠ケースカバーを引戸錠ケース裏板にかぶせます。

③引戸錠受けを引戸錠ケースカバーに取付け、同梱のねじ(皿小ねじφ4×10)で固定します。

※取付けねじは、柱又は間柱に固定してください。

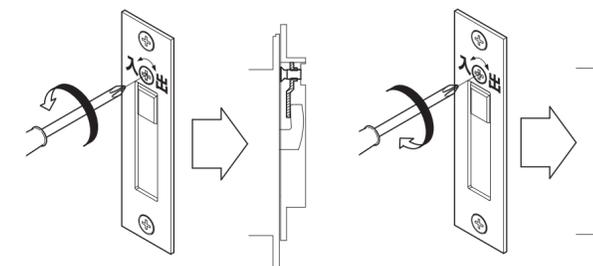


【引戸錠のかかり調整】

●引戸錠受けの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。

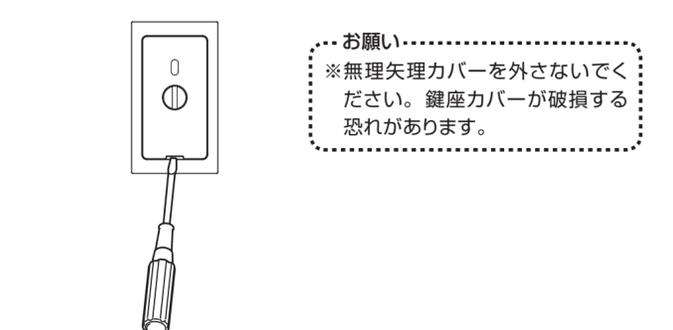
●本体と引戸錠のすき間が大きい場合
調整ねじを左に回して調整してください。

●錠がかかりにくい場合
調整ねじを右に回して調整してください。



【錠の取外し】

①錠座カバー下部の切欠き部にマイナスドライバーを差込んで錠座カバーを外してください。

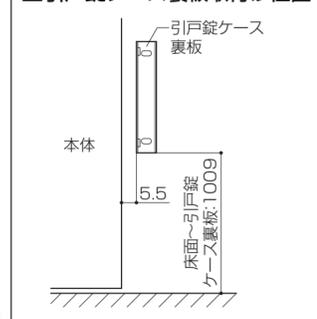


※無理矢理カバーを外さないでください。錠座カバーが破損する恐れがあります。

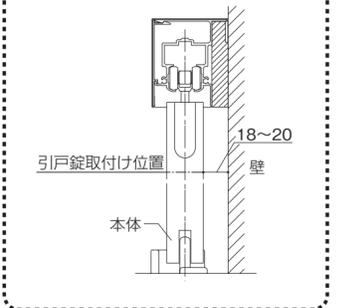
②スイッチ座と錠座の取付けねじを緩めてください。

③錠座とスイッチ座を外してください。

■引戸錠ケース裏板取付け位置



※引戸錠受けは、上部・下部ストッパーより先に本体が当たらないように取付けてください。
※引戸錠取付け位置の壁と本体のチリ寸法が18~20mmになるように、建付け調整を行ってください。鍵が施錠しないおそれがあります。



■本体の建付け調整

■本体の建付け調整

●本体の吊車には、上下方向および前後方向の調整機能が付いています。

①上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げ過ぎないでください。

②前後調整(調整幅±2mm)

●前後調整は化粧縁と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ5mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

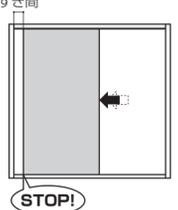
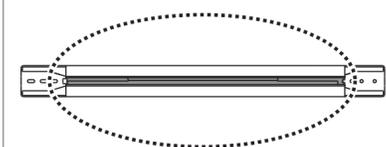
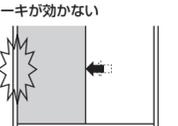
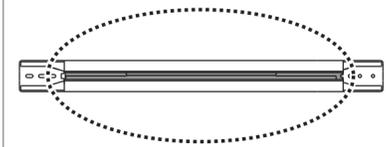
※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。

■本体の取外し方法

●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

※取外しがやりにくい場合は、マイナスドライバーなどを使用して操作レバーを押し上げながら引抜いてください。

■ソフトクローズ機能 異常時の対処方法

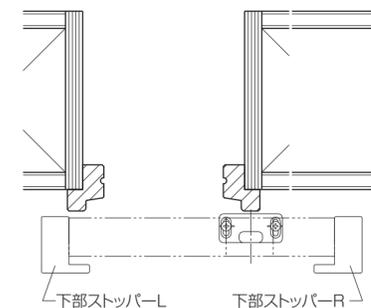
現象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない 	●ソフトクローズ部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトクローズ部品の交換が必要です。
ブレーキが効かない  <p>※ブレーキの効きには限度があります。重量の重たい本体を速くしめると、ブレーキ感が弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を早く閉めると、ブレーキ感を強く感じたりします。</p>	●ソフトクローズ部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトクローズ部品の交換が必要です。

■下部ストッパーの取付け

●下部ストッパーを同梱のねじ(バインドタッピンねじφ4×30)で固定します。

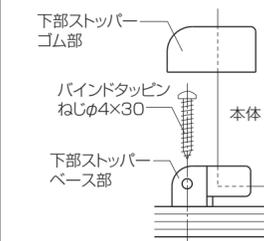
※本体を開閉した状態で位置出しをするので、本体の建付け調整後に取付けてください。

※入隅用縦部材を使用される場合は、下部ストッパーは片側(入隅用縦部材の逆側)のみ取付けてください。



■取付け詳細

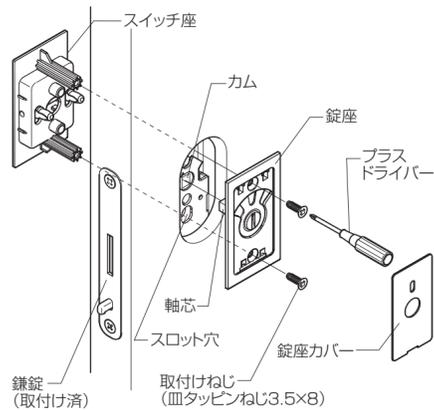
※下部ストッパーベース部を床面に取付け後、下部ストッパーゴム部をベース部にかぶせます。



お願い
 ※吊車が上部ストッパー(ゴム部)に当たった状態で、下部ストッパーの位置出しをしてください。上部・下部のストッパーの位置がずれると、上レールが変形するおそれがあります。

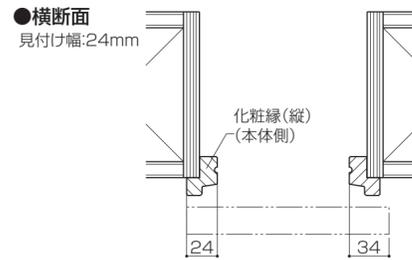
■引戸錠の取付け

●別売りの錠を下図のように組立ててください。

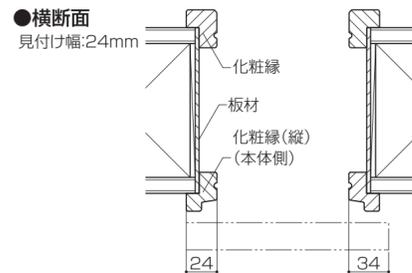


■据付け前の準備

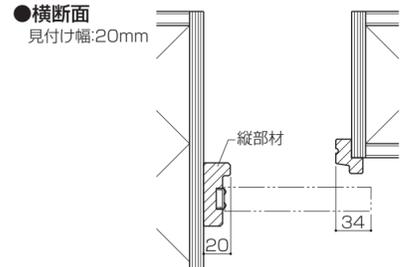
■化粧縁片面セット使用納まり例



■化粧縁両面セット使用納まり例



■入隅用縦部材使用納まり例

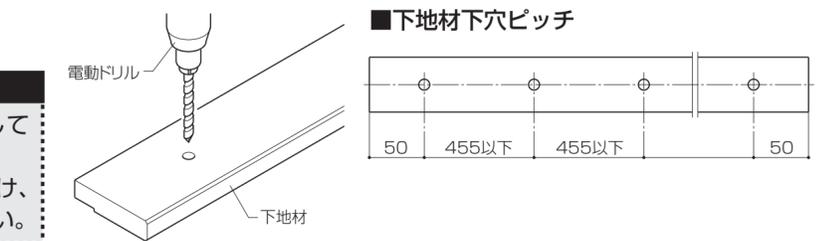


■取付け順序

①枠の取付け

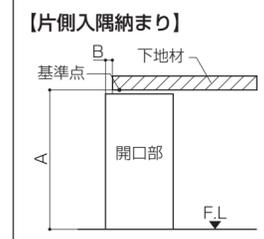
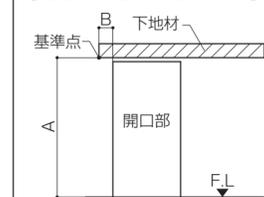
①下地材にφ3の下穴(貫通穴)をあけます。

▲注意
 ●必ず下地材に下穴をあけてから、ねじを固定してください。
 ●下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。



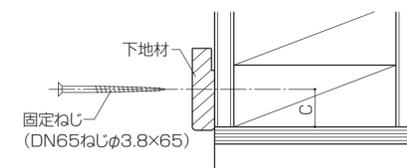
②下地材を指定の取付け位置に、同梱の固定ねじ(DN65ねじφ3.8×65)で水平に取付けてください。

■下地材取付け位置



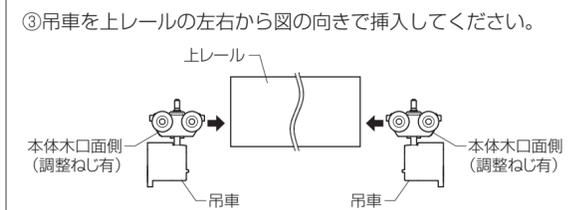
呼称	A	納まり	B
H20	1962.5	化粧縁片面	27
H23	2244.5	化粧縁両面	24
H特注時	DH+5	片側入隅	3

※上記のB寸法は、化粧縁と本体戸先側のかかり寸法が24mm(推奨値)の場合です。戸先側のかかり寸法は、17mm~24mmの間で調整できます。

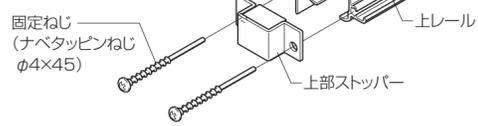


※C寸法は、8mm以上確保してください。8mm以上確保できない場合は、固定ねじを斜めに打込むなどして補強材に固定してください。

お願い
 ※下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
 ※下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。



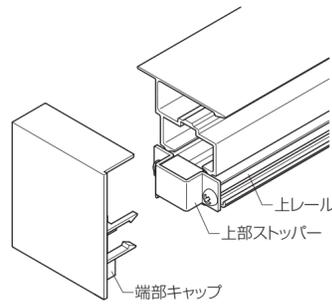
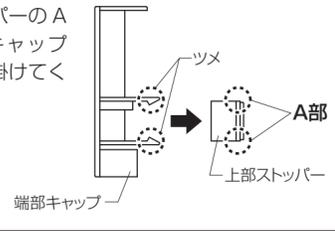
- ④上レール両端に、上部ストッパーを同梱の固定ねじ(ナベタッピンねじφ4×45)で取付けてください。



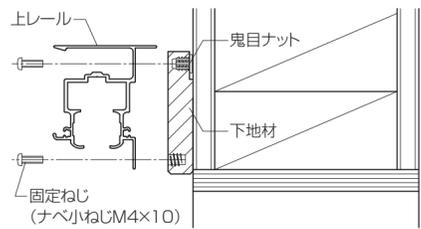
- ⑤上部ストッパー取付け後に、端部キャップをはめ込みます。

■取付け詳細

※上部ストッパーのA部に、端部キャップのツメを引掛けてください。

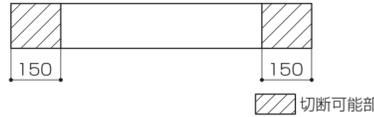


- ⑥上レールを下地材に取付け済みの鬼目ナット位置に合わせて、同梱のねじ(ナベ小ねじM4×10)で取付けます。



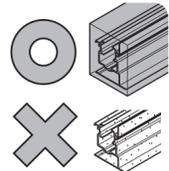
■枠を現場で切断して使用する場合

※必ず両側より均等に切断してください。
※枠は両端から150mmずつ、合計300mm切断することができます。下地材・上レールを切断する場合は、片側の切断寸法を同寸法にしてください。



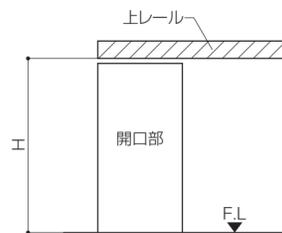
●お願い

※枠を現場で切断する場合は必ず両端より均等に切断してください。作動不良の原因になります。
※枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトクローズ部品に混入し、作動不良の原因となります。

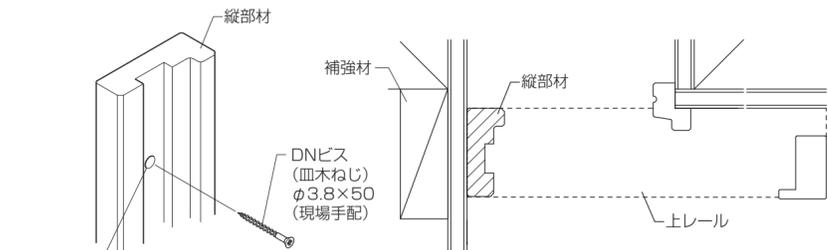


【片側入隅納まりの場合】

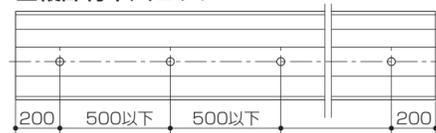
- ※造作材の「アウトセット入隅用縦部材」を別途手配してください。
①上レールと床の内法寸法Hに合わせ、部材をカットします。



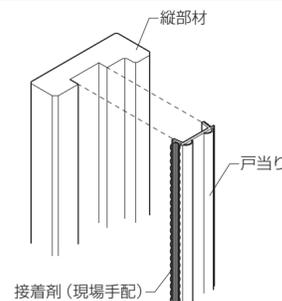
- ②縦部材にφ4.5の穴をあけ、上レールと床の内側に縦部材を挿入し、DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50(現場手配)で固定します。



■縦部材下穴ピッチ

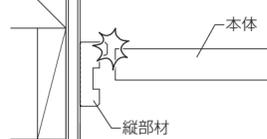


- ③縦部材の溝に戸当りを接着剤(現場手配)で取付けます。



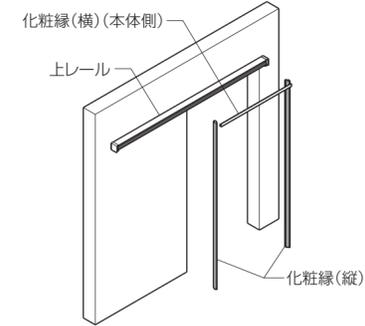
●お願い

※縦部材は、垂直を出して取付けを行ってください。本体が縦部材の突起に当たり、閉まり切らなくなります。



2化粧縁の取付け

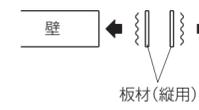
- ①化粧縁材を現場寸法に合わせて切断します。
②化粧縁材の裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。
※かくし釘のピッチは、200~300mmです。
※化粧縁材の取付け面は、接着剤がつくように仕上げてください。



■両面化粧縁の場合

※板材を開口部に取付けた後、化粧縁材を取付けてください。
※板材の開口部への取付けは、裏面(〜面)に接着剤を塗布して固定してください。又、板材への化粧縁材の固定用接着剤は、同梱のポリネートチューブを使用してください。

●横断面図

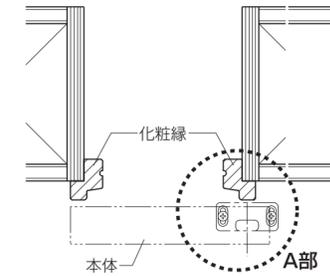


●縦断面図

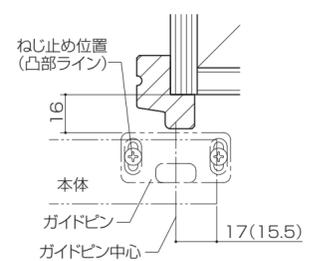


3ガイドピンの取付け

- ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。
※デザインにより取付け位置が異なります。必ず右図を参照してください。
※本体の開閉操作に影響が出ますので、必ずA部詳細図を参照してください。
●図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2箇所)の凸部(ライン)の位置にねじ止めしてください。



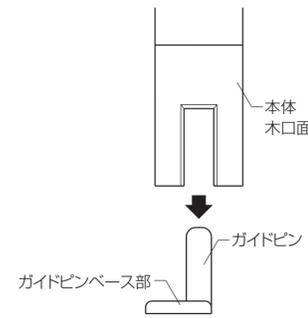
■A部詳細図



※()内寸法はBA6デザインの場合を示します。

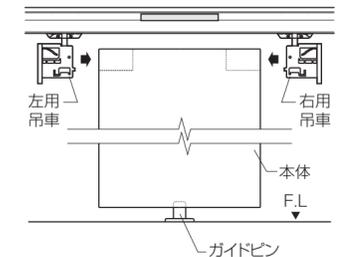
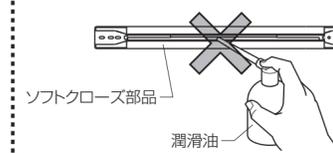
4本体の吊込み

- ①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。
②片側ずつ吊車を本体に水平に押込むと、ワンタッチで取付けられます。
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。



●お願い

※ソフトクローズ部品と吊車が干渉しない位置で吊込みを行ってください。
※ソフトクローズ部品に潤滑油を塗布しないでください。作動不良の原因になります。



▲注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みがたりないと、本体が脱落するおそれがあります。

■ソフトクローズ機構の復帰方法

- 本体を吊込んでもソフトクローズ機構が作動しない場合は、ソフトクローズ部品を確認してください。ソフトクローズ部品の正常な状態は下図の通りです。下図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。
※正常な状態はスライダー1とスライダー2が離れた状態です。



- ①スライダーを片側に寄せ、寄せた側と逆側のラッチA部にドライバーなどを挿入し、片側のラッチを回転させます。



- ②回転させたラッチと逆側のラッチ(ラッチB部)にドライバーを挿入し、引っ張ります。引っ張ると端部でラッチが回転し正常な状態に戻ります。



5前面カバーの取付け

- 前面カバーを上レールにはめ込みます。

